

メディカルバレー通信

発行／三重県健康福祉部業務感染症対策課 メディカルバレー推進グループ

vol. 26

2013 春

Contents

- ◆ メディカルバレーフォーラム
- ◆ マレーシア薬事産業ミッションのご報告
- ◆ みえライフイノベーション総合特区の活動のご報告
- ◆ ライフイノベーション推進事業のご報告
- ◆ リーディング産業展に出展しました
- ◆ メディカルバレー企業紹介
- ◆ みえ福祉用具フォーラム 2012 が開催されました
- ◆ ウェルネスの旅 2012 が開催されました

メディカルバレー フォーラム

みえライフイノベーションの 創出に向けて



交流会で挨拶する鈴木知事

平成25年1月30日(水)にホテルグリーンパーク津において、メディカルバレーフォーラムを開催しました。今年度は、「みえライフイノベーション総合特区」が国の指定を受けたことから、県より「みえライフイノベーション総合特区」の取組について説明し、講演Ⅰでは、大阪大学大学院工学研究科の中澤慶久特任教授から、講演Ⅱでは総合特区の地域拠点のひとつMieLIP伊賀の中心的な事業を担う上野総合市民病院の江藤啓司コーディネーターの進行により、本事業に参画予定のパナソニックヘルスケア(株)の院内ロボットストラテジックビジネスユニットの北野幸彦参事、本田技研工業(株)日本営業本部の伊藤寿弘主任技師、豊田通商(株)ライフスタイル部の丸山貴広課長から講演いただきました。

本フォーラムでは、県内外から医療・健康・福祉分野の関係者約160名が一堂に会し、産学官民のネットワークを充実・拡大することができました。また、講演会後の交流会では、鈴木英敬知事も参加し、講師の皆様を囲んで活発に意見交換をし、産学官の交流をより深めることができました。

講演Ⅰ 「特定保健用食品開発の裏話」



中澤 慶久 氏
大阪大学大学院工学研究科
特任教授

中澤特任教授は、日立造船(株)在職中に、新事業として杜仲茶シリーズの開発や特定保健用食品の開発・上市に携わってこられた経歴をお持ちで、杜仲茶の開発に当たっては、単に関与成分についての栄養学的な評価だけでなく、杜仲茶の人類との共存、生活のための活用の歴史やどの少数民族が食していたかなどまで、古い書籍を参照して調べたほか、古くからの言い伝えなどを地元住民にヒヤリングするなどの調査も行ってこられたことなどもお話しただけました。

地域資源を活用した医薬品等の開発を目指す企業の方々から「大変参考になるお話しだった」との声が聞かれ、今後、特区運営に係る県内企業の取組に生かされるものとなりました。

講演Ⅱ 「医療・福祉分野における ロボット活用の国際比較と今後の可能性」



三木 誓雄 氏
上野総合市民病院院長
講演に先立ち
MieLIP伊賀の取組を説明

パナソニックヘルスケアの北野参事からは、自律搬送ロボット「HOSPI」の病院での導入実績について講演頂き、HOSPIの導入によって病院のコスト削減が実現できたことと病院従事者の作業負担大幅減少により、本来業務の質の向上につながったことを説明いただきました。

本田技研工業の伊藤主任技師からは、装着型ロボットの開発についてお話しいただきました。ロボットの開発に当たり、転倒防止に役立つなどの機能の評価ができたなどの成果を説明いただきました。また、豊田通商の丸山課長からは、今後の少子高齢化の進展の中で、介護の質を落とさないためにも、「みえライフイノベーション総合特区」に期待していることをお話しいただきました。今後は、これらの活動が総合特区全体に波及していくことが期待されます。

マレーシア薬事産業 ミッションのご報告

平成25年1月14日(月)～1月19日(土)

平成25年1月14日(月) から19日(土) まで三重県薬事工業会主催によりマレーシア薬事産業ミッションが実施され、産学官及び金融機関関係者のメンバー21名により、政府機関、大学及び現地企業を訪問し、今後の県内の薬事関係企業のマレーシアへの投資に向けて、マレーシア関係者との連携・支援体制を構築しました。主な訪問内容は次のとおりです。



マレーシア投資開発庁本部 (MIDAHQ) 及びハラル産業開発公社 (HDC)

マレーシアにおける法制度、マレーシアへの投資やM&Aを行う本県企業に対し、投資奨励策(税制面の優遇等)の適用、工場用地や企業の紹介等に関して熱心な質疑応答がなされました。

保健省薬品管理局 (NPCB)

マレーシアでの医薬品や化粧品等の製造に関して、マレーシア薬事法の規制や手続きについての説明を受け、本県企業がマレーシアに進出し、医薬品や化粧品の販売を進める際の薬事法上の規制等についての情報交換を行いました。

CCM Pharmaceuticals Sdn.Bhd. (医薬品メーカー)

会社概要並びに製品群の説明を受けたほか、マレーシア医薬品産業動向について活発に質疑応答しました。マレーシアでのGMP基準等の遵守状況や雇用の実情等についてレクチャーを受けました。

Naz Medical Supplies Sdn.Bhd. (医療機器メーカー)

当社はマレーシアでは医療機器メーカーとしての位置づけですが、透析薬などを製造しており、日本では医薬品メーカーに該当します。主に製造施設を視察した後に意見交換をしました。先方は、日本の医薬品製造技術を高く評価しており、今後、技術連携についての情報交換をしていきたいとの申出がありました。



マレーシア・マラ工科大学薬学部

先方から学生交流、研究者交流の申出があり、同大学と三重大学・鈴鹿医療科学大学との間で調整を図っていくことで合意しました。



イスカンダル地域開発区

マレーシア南部、シンガポールに隣接する地区の総合開発計画区域を視察しました。既存産業だけでなく、教育・金融等にも注力していることが伺えました。



みえライフイノベーション総合特区の運営体制の整備

平成24年7月25日に国から指定を受けた地域活性化総合特区「みえライフイノベーション総合特区」では、これまでの産学官民連携体制の基盤や医療系ネットワークを活用し、県民の医療情報を統合した「統合型医療情報データベース」を構築するとともに、研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）」を設置します。同センターのうち、MieLIP セントラルは三重大学内に、地域の特性を生かした産業創出を支援する6つのMieLIP 地域拠点は、鈴鹿・津・伊賀・多気・鳥羽・尾鷲に早期に設置し、運用していきます。

このデータベースや拠点の活用などにより、企業等による画期的な医薬品や医療機器等の創出、企業や研究機関の県内への立地促進、雇用の拡大などを図り、県内企業・大学等による県内経済の活性化を目指します。

これらの取組を進めるため、10月19日に鈴木知事を本部長とし、関係9部局長を本部員とする「総合特区推進本部」を設置しました。また、総合特区を推進する事業の民間実施主体と地方公共団体による産学官民連携の総合特区地域協議会や MieLIP 7 拠点（セントラルと6地域拠点）の責任者で構成する MieLIP 連



絡会議を設置し、各拠点で実施する事業の協議や拠点間の情報共有を行っています。

特区に関する取組としては、国で用意している利子補給制度を盛り込んだ総合特区計画を国に提出し、11月30日に認定を受けました。

みえライフイノベーション総合特区のPR活動

みえライフイノベーション総合特区については、国からの指定以降、各種フォーラム・セミナー等で積極的にアピールしています。

特に11月30日に行われた「みえ治験医療ネットワーク10周年記念シンポジウム」では、みえ治験医療ネットの西川政勝常務理事が「MieLIP セントラルに向けて」のテーマで講演、MieLIP セントラルとして進むべき方向性等について説明しました。このシンポジウムでは、情報通信技術、ICT などの専門家からそれぞれの立場でみえライフイノベーション総合特区に対する期待のエールが送られました。最後に、製薬会社の開発の専門家から、統合型医療情報データベースの構築により、薬害の未然防止、医療ニーズに合致した新薬の開発、臨床試験の効率化が図られ、将来的には医薬品の効果と副作用の関係が明らかになり、個別化医療の進展が展望されると、みえライフイノベーション総合特区へ強く期待すると述べられました。



ライフイノベーション推進事業のご報告

(1) 医療・福祉機器等の研究開発・実用化の促進

医療現場、福祉・介護現場で必要とする医療・福祉機器や医療・福祉サービス等の開発のしくみを構築し、製品開発を促進することにより、医療・福祉産業の活性化を図っています。その一環として、事業者を対象に試作品製作等に係る費用の一部を補助しています。平成24年度の採択案件は以下の通りです。

募集時期	事業者名	所在地	案件
一次募集	(株)アイシス	伊賀市	実用型痒み測定装置
//	(株)スミス	伊勢市	自由・軽量・安価な在宅介護用スロープ
//	(株)タイハイ産商	桑名市	長期保存可能吐瀉物不活化剤をセットした感染症対策キット
//	森和英(モリプラ)	松阪市	はがし易い医療用テープ
二次募集	(株)アイシス	伊賀市	実用型手洗い推奨補助装置
//	橋本電子工業(株)	松阪市	がん治療用超音波プローブとその駆動装置

(2) 地域資源活用型医薬品等の開発促進

地域産業の活性化と地域資源のブランド化の推進及び県民の皆様の生活の質の向上を目的に、県内の地域資源を有効活用し付加価値の高い医薬品、医薬部外品、化粧品、特定保健用食品やえん下困難者用食品等を継続的に開発するしくみを構築し、製品開発を促進しています。平成24年9月にこの事業を推進するプロジェクト事業者を募集し、以下の事業者が採択されました。また、天然資源を活用した医薬品や化粧品等の製品化に向けた試作品づくり等に係る費用の一部を補助しています。平成24年度の採択案件は以下の4件です。

◆地域資源活用型医薬品等開発事業プロジェクト案件

事業者名	所在地	対象地域資源
中外医薬生産(株)	伊賀市	ゆず
御木本製薬(株)	伊勢市	海藻・モロヘイヤ
志摩市商工会	志摩市	アカモク
伊勢くすり本舗(株)	伊勢市	薬用植物
万協製薬(株)	多気町	ハナビラタケ
熊野市農業振興課	熊野市	新姫
(株)ミルボン	伊賀市	ツゲ
井村屋(株)	津市	モロヘイヤ
(株)ベルピオン	松阪市	シャクヤク・ゆず

◆地域資源活用型医薬品等開発事業 補助金

事業者名	所在地	案件
伊勢くすり本舗(株)	伊勢市	伊勢の神話にまつわる薬草を用いた薬湯(医薬部外品)の開発
万協製薬(株)	多気町	地域資源活用型地域貢献型化粧品(まごころシリーズ)の開発
(株)ベルピオン	松阪市	シャクヤクPGG含有スギ花粉捕獲抗体結合リポソーム液剤の開発
御木本製薬(株)	伊勢市	伊勢志摩地域の海藻資源を活用した高機能化粧品の商品化

リーディング産業展に出展しました

みえメディカルバレープロジェクトでは、平成25年2月13～14日に四日市ドームで開催されたリーディング産業展みえ2013に出展し、プロジェクトをPRしました。みえライフノベーション総合特区の取組やメディカルバレープロジェクトの成果商品について、多くの来場者の方々に知っていただくことができました。

また、同産業展では、異業種分野の方々に医療・福祉市場の動向の知識を深めていただくためにセミナーを開催し、約80名の参加者となりました。



講演1では、(株)奥村ゴム製作所の田中専務取締役をお招きし、三重大学社会連携研究センターの加藤助教、(株)百五経済研究所の服部取締役とパネルディスカッションを行いました。

ディスカッションで田中専務は、医療分野への参入を決めた経緯、医療分野参入のためのきっかけをどう捉えたか、現在進行中の案件、異業種から参入する際に苦労したところを語っていただきました。自動車部品から医療分野への参入ということで、最初は何も分からず、三重大学の加藤助教の全面的な協力



で苦労を乗り越ったとの説明でした。やはり、三重大学医学部附属病院と大学との連携は、新規参入企業にとっては不可欠であることが伺えました。しかし、苦労や戸惑いは多かったものの、医療分野への参入を進めたことで、会社の体質が大きく変革したことや新たな出会いにより仕事に幅ができたこと、新規分野への参入に向けて社長をはじめ社員一同でその取組を支えているなど非常に前向きに取り組んでおられる様子を話してくださいました。

また、新規案件を手がけるための意思決定に最も重要なことは「決断する勇気」であると話されたことも印象に残りました。

講演2では、昨年10月に中部・近畿拠点を設置したCYBERDYNE(株)営業戦略部の久野部長をお招きし、「ロボットスーツ「HAL®」の紹介～高齢者福祉と地域産業振興の同時解決へ～」と題して講演していただきました。人が体を動かそうとする際に、脳から発する神経信号をHAL®が読み取り、装着した人がどのような動きをしようとしているかを判断して、その動作をサポートするメカニズムを実演を交えて説明していただきました。

説明に当たっては、難病により歩行ができなかった女性が、前向きな気持ちでHAL®を使ったりハビリを続け、結婚式ではHAL®を装着せずにバージョンロードを歩いた事例などが紹介されました。「歩けなくなった人に再び歩く喜びを!」との思いを実現するために、今後もHAL®をバージョンアップさせる方針であり、そのために、三重県内のものづくり中小企業の協力に大変期待しておられる旨のお話をいただきました。



メディカルバレー企業紹介

株式会社 大阪製薬

(株)大阪製薬は東大阪市に本社を置き、三重県伊賀市下友生に製造拠点を持つ医薬品等受託製造企業です。外用薬製剤技術と独創的な研究開発により広く社会に貢献しています。今回は、伊賀市の光工場製造部の阿菰部長と品質保証部の新田次長にお話しを伺いました。

当社は、1888年(明治21年)に創業した老舗で、ガレックス製剤の製造からスタートしました。創業以来、開発力と提案力の向上を通して常に時代のニーズをリードして医薬品製造の創造的パートナーとして歩んできました。

1994年(平成6年)に上野市(現伊賀市)に光工場を新設したのが三重県進出の始まりです。当初は防虫剤の製造が中心でしたが、1997年に工場を改築し、医薬品の製造を開始、2001年にはGMP基準に対応するために再改築し、現在に至っています。現在、光工場での生産品目は、痒み止めなどの医薬品が中心で、そのほかとしては忌避剤などの医薬部外品、日焼け止めやボディローションなどの化粧品なども製造しています。社員は全社で100名で、そのうち光工場は総勢25名(男女比率3対7)です。ラインの社員はほとんど20~30歳台の若い社員で活気にあふれています。

当社の特徴は単にお客様からの指示に基づき医薬品を製造するだけでなく、お客様の課題や希望から潜在的・顕在



的なニーズを引き出し、それに的確にマッチした製品を提案していることです。大阪製薬の社名で売出している製品はありませんが、有名なブランドも取扱っていますので、みなさんも知らないうちに当社の製品を使っていると思います。

みえメディカルバレープロジェクトでは、薬事研究会の医薬品等品質管理研究会と微生物研究会に参加しています。また、もしニーズが合えば、地域資源活用型医薬品等開発事業でもご協力できればと思っています。

株式会社 大阪製薬 光工場

〒518-0817 三重県伊賀市下友生3019番2号
TEL/0595-21-8485 FAX/0595-24-6105
<http://www.osaka-pharma.co.jp/>

三重金属工業 株式会社

三重金属工業(株)は津市に本社を置く自動車向けの精密金型部品の製造販売が主たる事業です。県内4ヶ所のほか上海、ベトナムに製造拠点を持ち、独自の技術とノウハウにより、多様なニーズにいち早く応えています。今回は、その技術を活かして医療・福祉分野で貢献したいと願う西本正社長にお話しを伺いました。

当社は、元々松下電工(現パナソニック)津工場のプレス金型及び金属部品製造からスタートした会社で、その後は、自動車部品向けの事業の取扱が増え、現在に至っています。

自動車部品、電機電子部品で培ってきた技術やブレーカーやリレーなどの開発実績を医療分野でお役に立てるのではないかと考え、3年前にメディカルバレーの医療機器のマッチング会に参加しました。

三重大学医学部附属病院の医師のニーズを紹介して頂き、病院で看護師さんが患者さんを移送するのに、輸液類や精密機械をベッドからストレッチャーに付け替える必要があり、大変時間がかかり、ご苦労されているのを知りました。

そこで、点滴棒とキャスターが分離するシステムを考え、輸液ポンプ等の着脱作業を必要とせず、ワンタッチでベッドやストレッチャーへの点滴棒の装着を可能にすることを提案し、大学や病院の方々の協力を頂きながら、新型の点滴棒を開発しました。

医療現場での運用テストでは、付け替え作業による時間の大幅短縮、機器の落下防止やチューブの絡まり、外れ防止等の安全面の向上、中腰作業の回避等の作業効率の向上を図ることができ、現場の看護師さんから大変好評を得ま

した。

県からのお勧めもあり、日本能率協会の企業競争力強化支援事業に参加し、11月14~16日の病院・福祉設備機器の展示会HOSPEX(東京ビッグサイトで開催)で、新型点滴棒「カチャッと君」を展示しました。3日間で多くの病院関係者、医療機器メーカー・卸などの方々に来場いただき、大変好評でした。また、医療に従事するの方々から貴重なアドバイスをいただくこともできました。

まだ試作の段階ですが、来場者の方々からのご意見をもとに開発を進めていく予定です。また、製品としての開発に関心を持った企業もありましたので、共同開発を視野に入れて開発を進めていきます。



西本 正 社長

三重金属工業 株式会社

〒514-0823 三重県津市半田564-1
TEL/059-228-0101 FAX/059-228-0105
<http://www.miekin.co.jp/>

『みえ福祉用具フォーラム2012』が開催されました



平成24年12月14日に、津市一身田の三重県身体障害者総合福祉センター（みえテクノエイドセンター）で「みえ福祉用具フォーラム2012」が開催されました。当日は介護支援専門員、福祉用具相談専門員、学生の方々など約220名の来場者が参加し、福祉用具の展示、福祉用具に関する各種セミナーなどが開催されました。自助具の展示・製作体験では、自助具ボランティア「自助具工房くわな」、「鈴鹿自助具倶楽部ダブルシュークリーム」の皆様の指導によるストローホルダー等の製作体験をしました。また、高齢者生活福祉研究所所長の加島守氏をお招きし、「事例から見た福祉用具活用法」のテーマでの特別講演を開催、多くの来場者が熱心にメモを取っていました。また、福祉用具アイデアコンクール表彰式も行われ、全国から130件の応募があり、次の作品が表彰されました。受賞者の皆様、おめでとうございます。

賞	受賞者	作品名
最優秀賞	後藤 智之さん	カーハンドレール
優秀賞	小椋 翔也さん	振動変換座席
	上田 真紀さん	取手付食器洗浄用スポンジ
みえメディカル研究会賞	潮田 元美さん	ポンツと脱水
三重県作業療法士会賞	野坂 梨奈さん	片手で干せる洗濯バサミ
(社)日本福祉用具供給協会三重ブロック賞	福嶋 利枝子さん	くすり忘れないカップ
三重テレビ放送(株)賞	伊藤 里紗さん	ノック式口紅
伊勢新聞社賞	坪井 潤さん	多機能サポート盤



『ウェルネスの旅2012』が開催されました



平成24年10月20～21日に「ウェルネスの旅2012」が開催され、24名が参加しました。2日間ともに好天に恵まれ、素晴らしいウォーキング日和でした。1日目は伊勢神宮外宮の参拝、4月7日にオープンした「せんぐう館」の見学後、外宮一内宮をつなぐ御幸道路（約4.5km）を歩き、昼食には相可高校食物調理科プロデュースの減塩弁当を食べ、内宮参拝、おかげ横丁を散策し定期船で答志島へと渡りました。

2日目は地元のガイドさんの説明のもと答志島の路地裏を散策しました。お昼ごはんは相可高校の村林先生の指導のもと、調理実習でつくった小エビの天ぷらサラダ、松茸ご飯、冬瓜のそぼろあんかけ、タピオカミルク等をいただきました。その後、村林先生と三重大学医学部附属病院の岩田先生の対談で塩分の摂取量を中心に食事のカロリーについて気をつけること、食べることの重要性や村林先生の教育方針のお話しなども聞くことができ、大変楽しいツアーとなりました。



編集後記

「みえライフノベーション総合特区」
「MieLIP（みえりっぷ）」もう覚えていた
だいたでしょうか。昨年7月に国の指定を
受けた総合特区の取組もいよいよ加速し
ていきます。4月からは新体制で臨みます。
ご期待ください。（gao）

今年度最終号のメディカルバレー通信で
す。
まだまだ寒いですが、春に向けていいス
タートが切れるようにあとひとふんばり。
（T）

年度末、皆様いかがお過ごしでしょうか？
最近、まわりではインフルエンザや風邪
でダウンされる方をよく見かけます。
元気に新年度を迎えられるよう体調管理
には気をつけましょう！（NH）

^_^
（TDT）
ノ つつ
ノ ノ
レ

（甘党）

今年は「ウェルネスの旅」に参加させて
いただきました。この旅では少ないカロリー
でいかに満足感を得るかなどの工夫を教
えていただきました。無理せずダイエットを！
来年度のテーマにさせていただきます♪
（NKS）

マレーシアミッションに参加させていただ
き、メディカルバレーの産学官民の連携
の強さを実感しました。また、各訪問先
では素敵なおもてなしを受け、マレーシ
ア人の明るく温かな人柄を感じてきました。
お世話になった皆様、ありがとうございます。
（NT）

発行 三重県健康福祉部薬務感染症対策課
メディカルバレー推進グループ
〒514-8570 三重県津市広明町13番地
TEL:059-224-2331 FAX:059-224-2344
e-mail:yakumus@pref.mie.jp

メディカルバレープロジェクトホームページ
<http://www.mvp.pref.mie.lg.jp/>
みえ福祉用具産業支援ネットワークホームページ
<http://www.fynet.pref.mie.lg.jp/>

医薬品安全情報提供システムホームページ
<http://www.medsafe.pref.mie.lg.jp/>
三重県薬事工業情報提供システム（PIIS）ホームページ
<http://www.piis.pref.mie.lg.jp/>